



文法：疑問：付加疑問



文法：疑問：付加疑問：基本：解説

1 基本

付加疑問 (tag-question) とは、日本語で文末に終助詞「～よね?」を加えることで作ることができる確認や同意を求める表現 (例: 「これは犬です、よね?」) に相当するような、簡潔な疑問文のことである。作り方: まず元になる平叙文 (= 普通の文) の①極性を逆にして (= 肯定→否定または否定→肯定にして)、②疑問文に書き換えて、③主語が代名詞でない場合にはそれを代名詞に置き換えて、④主語の後に続く部分を全て削り去り短縮したもの (= タグ) を、⑤元の改変前の文の文末にカンマを挟んで付け加える:

元の文 (肯定文・be動詞) : Tom is your uncle. (トムは君の叔父です。)

↓

①極性を逆転 (肯定→否定) : Tom isn't your uncle. ㊦否定文になる。

②疑問文にする : Isn't Tom your uncle? ㊦否定疑問になる。

③主語が代名詞でない場合は代名詞に置き換える : Isn't he your uncle?

④主語より後を削り短縮する (= タグ化) : Isn't he ~~your uncle~~? → Isn't he?

↓

できあがったもの (= タグ) を、元の文の文末にカンマを挟んで加える (完成) :

Tom is your uncle, isn't he? (トムは君の叔父です、よね?)

文末の「..., isn't he?」の部分をタグ (question tag) と呼ぶ。発音は上げ調子 (↗) になる!

元になる文が否定文の場合も基本操作は同じ:

元の文 (否定文・一般動詞) : Tom doesn't study English. (トムは英語を勉強しない。)

↓

①極性を逆転 (否定→肯定) : Tom studies English. ㊦肯定文になる。

②疑問文にする : Does Tom study English? ㊦普通のYes/No疑問になる。

③主語が代名詞でない場合は代名詞に置き換える : Does he study English?

④主語より後を削り短縮する (= タグ化) : Does he ~~study English~~? → Does he?

↓

できあがったもの (= タグ) を、元の文の文末にカンマを挟んで加える (完成) :

Tom doesn't study English, does he? (トムは英語を勉強しない、よね?)

過去時制、助動詞、受動態、進行相、完了相、存在構文を用いた文の付加疑問は以下の通り:

Tom <u>came</u> to the party, <u>didn't he?</u>	トムはパーティーに来た、よね? ㊦過去時制。
You <u>can't</u> speak English, <u>can you?</u>	君は英語を話せない、よね? ㊦助動詞。
Tom <u>is</u> liked by everyone, <u>isn't he?</u>	トムはみんなに好かれている、よね? ㊦受動態。
She isn't doing her homework now, <u>is she?</u>	彼女は今宿題をやっていない、よね? ㊦進行相。
He <u>hasn't</u> finished the work yet, <u>has he?</u>	彼まだその仕事を終えてない、よね? ㊦完了相。
There <u>is</u> a pen on the table, <u>isn't there?</u>	テーブルの上にペンがある、よね? ㊦存在構文。

!抑揚を下げる (↘) と、質問ではなく、特に相手からの答えを求めない叙述表現になる。

② 付加疑問に対する答え方

This is his pen, isn't it? —Yes, it is. / No, it isn't.	これは彼のペンです、よね？ —はい、そうです。/ いいえ、違います。
He doesn't study English, does he? — No, he doesn't. / Yes, he does.	彼は英語を勉強しない、よね？ —勉強しません。/ 勉強します。

付加疑問に対する答え方は、通常の疑問文と同じである。否定文の付加疑問（＝否定文＋肯定タグ）の場合は、否定疑問に対する場合と同じ答え方になる（≒日本語のはい/いいえと英語のYes/Noが逆になる）。

付加疑問は確認の誘導尋問^{じんもん}的な質問となり、肯定文の付加疑問（＝肯定文＋否定タグ）の場合は答えは「Yes」が期待され、否定文の付加疑問の場合は答えは「No」が期待される。

③ 命令文の付加疑問

Stop talking, <u>will you?</u>	おしゃべりするのはやめろ、よな？
Be quiet, <u>will you?</u>	しずかにしろ、よな？
Pass me the salt, <u>will you?</u>	塩をとってくれますか？
Pass me the salt, <u>will you please?</u>	
Pass me the salt, <u>please.</u>	
Pass me the salt, <u>would you?</u>	
Pass me the salt, <u>could you please?</u>	

命令文の場合は、基本、全て「…, will you?」を用いて付加疑問にする。命令文を付加疑問にすることでニュアンスが命令から要望（please）に変わる（直接答えを求める質問表現ではない）。

Don't smoke in this room, <u>will you?</u>	この部屋の中でタバコ吸うなよな？
Don't be noisy, <u>will you?</u>	うるさくするなよな？

禁止命令の場合でも、通常の命令文同様、「…, will you?」のタグを基本用いる。

Open the door, <u>will you?</u>	ドアを開けてくれ、ない？
Open the door, <u>won't you?</u>	

肯定の命令文の付加疑問には、「…, will you?」の代わりに「…, won't you? (/wouldn't you/can't you/couldn't you)」を用いることもできる。この場合、相手の答えが「No」になる可能性も認める表現になる（「No」の回答がありえない文脈では使用不可）。

4 Let'sの付加疑問

Let's go to the park, <u>shall we?</u>	公園に行こう、よね?
Let's go shopping, <u>shall we?</u>	買い物に出かけよう。

Let's文の場合は「…, shall we?」を用いる。

5 否定副詞などの表現を含む文の付加疑問

You have <u>never</u> met Tom, <u>have you?</u>	君は一度もトムに会ったことがない、よね?
You have <u>no</u> money, <u>do you?</u>	君は一銭も金がない、よね?

neverやhardlyなどの否定副詞や、noやfewなどの否定形容詞、nothingなどの否定代名詞を用いている肯定文の場合、その文は否定文としてとらえて付加疑問を作る。

6 right

Then you won't come, <u>right?</u>	それでは君は来ないんだね。
------------------------------------	---------------

どんな文でもその文末に「…, right?」を加えることによって「～よね」の意の念を押す疑問文を作ることができる（口語表現）。

We are friends, aren't we? <small>☞基本。</small>	僕たちは友達だ、よね?
We are friends, are we not? <small>☞古い表現。</small>	
We are friends, no? <small>☞口語表現。</small>	

「…, yes/yeah?」「…, no?」「…, OK?」「…, eh?」といったくだけた付加疑問タグもある。ただし、「…, yes/no?」はスペイン語などで同様な表現があることから、そうした言語を母語とする人が英語を話す際に使用することがあるため、外国人なまり的に聞こえるとされることもある。

7 極性が同じ付加疑問

基本、元の文とその後に加えられる付加疑問タグは極性（肯定/否定）が逆になるが（＝肯定文＋否定タグ、否定文＋肯定タグ）、同じになる場合もある（＝肯定文＋肯定タグ、否定文＋否定タグ）。この場合、質問や確認の表現ではなく、単に相手の提供した情報に対し興味、驚きなどの感情を表すだけの表現となる。文末は下げ調子の発音（↘）になる。

Tom is your father, isn't he? ↗ —Yes, he's my father.	トムは君のお父様です、よね?（多分そうだと思うが、確信がないので確認する場合。） —ええ、彼は私の父です。
Tom is your father, is he? ↘ —Well, everybody knows that now.	トムは君の父親だよ。ね。（トムが相手の父であることを知っているのを伝える場合。） —まあ、もうみんなそれ知ってるけど。